

国民の大きな注目が集まるオリンピック・パラリンピックが 3 年後に近づく中、当協会
は平成 28 年度 2 月に「インダストリアルデザイン」の定義について円卓会議を開催した。
現理事のみならず会員諸氏の参加を得て活発な議論がなされ、益々インダストリアルデザ
インの重要性、多様性が認識されたところであります。

ありがたいことに会員におけるインダストリアルデザインへの情熱は高く、一部には絶
滅危惧種などの発言もありましたが、その社会的役割について形は変化しているもののそ
の意味合いについては更なる意識を鼓舞されました。そんな中当協会のインダストリアル
デザインの普及・啓発を行うと言う信念を基軸に公益性を持って活動を続ける所存です。
それにより社会に貢献できると信じております。

■平成 29 年度の活動骨子

●人材育成と教育

H29 年度は、教育委員会を 2 つに分け「教育委員会(仮称)」「アクレディット委員会」と
する。「教育委員会」は、九州での 3 年振り ADA 日本開催に向け準備を行い、日本、韓
国、台湾 3 か国の学生ワークショップ成功に導くと共に他のアジア各国にも参加を呼び
かけ「アジア国際デザイン会議」開催も目論む。また、日本に留学しているデザイン系
の学生支援も行う。「アクレディット委員会」は、プロダクトデザイン検定の更なる普及
のため 28 年度に作成した指導 PPT の頒布により学校単位の採用を拡大させる。

●各種セミナー、フォーラムの充実

良いセミナーの開催は、当協会の Value Up 機会の大きな 1 つである事を認識し、より
練られたテーマでの魅力ある開催を通し広く外部からの参加を募る。また諸外国へのデ
ザインセミナーの提案も考えたい。

●ミュージアム事業とミュゼ蔵 20 周年

長野市信州新町に JIDA デザインミュージアムを設置して 20 周年となるのを記念して各
種催しを挙げる。また、セレクション事業も第 19 回目を迎え 4 回目となるゴールドセ
レクションの更なる定着を目指す。それらにより「優れたデザイン価値」を広く社会に
発信する。

●調査・研究事業の成果報告

スタンダード委員会「キッズデザイン部会」の子供の安全・安心に配慮したカッターの
研究成果を発表レベルにし、状況によっては社会に還元する。また、生産が困難な状況
にあったスタンダードサンプル No.4 の再発行を目指すため準備を行う。更に海外からの
需要に応える検討も開始する。

●広報の強化と具体化

ホームページからの JIDA サンプル頒布のし易さに供するようカード決済のためのカート設置を目論む。また、各種セミナー情報等発信機能もタイムリーに行い JIDA の価値に貢献する。デジタルアーカイブの推進も暫時進行する。JIDA パンフレットの新版を英語版も含め作成する。アニュアルレポート、Web マガジンの充実を図る。

●ビジョンの発信

28 年度の円卓会議を踏まえ更なる発展を見るためフォーラム開催を行う。

●助成金の申請

石橋財団のみならず、各種活動のため他の財団法人等に助成を申請し、JIDA 活動がより広く充実した内容で発信できるよう努力する。

以上